

## ＜(一社)東京都小学校PTA協議会「第 28 回広報紙コンクール」講評＞

平成 29 年 6 月 10 日  
教育家庭新聞社  
代表取締役 菊池清広

最優秀賞に選出された新宿区立東戸山小学校PTAの広報紙「ひがしとやま」をはじめ、優秀賞、佳作、奨励賞の皆さん、受賞おめでとうございます。

近年の傾向として、PTA広報紙は地域との連携・交流を意識し、地域の公共施設やイベントを取り上げ、地域の学校ボランティアなどを積極的に紹介している紙面が増えています。地域に“開かれた学校”からはじまり、今では、地域とのパートナーシップを基本とした学校運営の時代。地域が全体で子供を見守り・育てることが求められています。学校が発行する「学校便り」と併せ、保護者目線で発行するPTA広報紙は、地域と学校とを結ぶ有力なツールとなるものです。PTA活動の活性化のためにある広報紙ですが、地域とのコミュニケーションの活性化にも役立つことも意識の隅に置き、紙面づくりに取り組まれるのも今後は大切でしょう。

それでは今回のコンクールで入賞した広報紙の中から、受賞のポイントや、これからの広報紙作りの参考としてもらいたい部分を簡単に紹介します。

### ■「ひがしとやま」=楽しさ満載、紙面から伝わる躍動感

表紙から中面、そして最終面である表 4 まで写真と記事を緻密に配して、無駄や遊びなどのスキがありません。写真・記事と見出し・レイアウトがいずれも細部にまで神経が行き届いた紙面のつくりはお見事です。

PTA主催の行事はもちろんのこと、運動会や学校公開、学芸会などの学校行事にも取材の足を運び、現場の様々な場面や表情を写真に記録しています。これだけの分量の写真で紙面を構成すると、とかくアルバム帳のように写真を張り込んだだけで完了させた広報紙になりがちなのですが、どのページをみても見出しや丁寧な記事が添えられて、見る楽しさと同時に読む満足度も満たされます。

PTAの年間行事も折り返しの時期にあたる第 3 号では、現職の役員、委員へのアンケートで構成した「PTAのオシゴト大研究」を特集。役員や委員会それぞれの特色を「仕事の充実度」「学校に行く頻度」など 6 項目のグラフで比較。「とにかく大変」というイメージ先行で敬遠されるところを“見える化”の工夫することで、「案ずるより生むが易し」ですよ！と呼びかけています。

また特集や企画の一方で、保護者ならではの視点で伝えるちょっとした情報があることが、アクセントを生み全体として充実した紙面に見せる効果があります。たとえば「笑顔のヒガト！」は、あえて場外スペースを使うことで、各号を通じてたくさんの笑顔を登場させることに成功しています。他にも毎号のタイムリーな話題や、学校内の知られざる穴場に注目した「HEADLINE NEWS」、「ヒガト探検隊」など、見る人は見ている“小ネタ”が豊富です。

## ■「風」=保護者にPTA活動情報を伝える

「保護者として『PTA』をより良く分かるように…」との願いから、保護者の目線が感じられる紙面。各号の表紙には必ず、大きな目立つフォントで特集とテーマを掲載するだけでなく、読みたい・知らせたい記事は全て表紙に見出しを書き出しています。週刊誌の車内吊り広告のようであり、その狙いは功を奏しています。

以前とはちょっと変わりつつあるPTA活動の側面を、毎号で取り上げています。地域全体で子供を見守る「PMP活動」、地域に開かれた学校運営である「CS」の紹介など。学校支援だけではない今日的なPTA活動を知ることができる記事です。また読者参加を目指した企画「PTA公募コーナー」は、「がんばったよ運動会！」「ぼくのわたしの夢給食！！」など視点を変えた情報コーナー。初めての運動会だった1年生の保護者が作って持たせた渾身のお弁当、飛び上がって勝利を喜ぶ低学年などの思わず共感する所がたくさんありそうです。

## ■「誠之」=保護者向けの情報に徹底した紙面

貴重な紙面は表紙から有効に活用する方針で、「PTAからのお知らせ」としてパトロール活動への協力、リサイクル販売会やベルマーク・トナー回収を呼びかけています。そして次号では協力御礼や目標達成の報告を掲載。名実共にPTA活動を中心にした、保護者向けの活動情報の掲載に徹した紙面です。

特集「見て知って参加しよう。誠之小PTA & ボランティア」では6ページを費やし、各指名委員会の活動概要や部長のアピール紹介、4つの学校支援ボランティアの活動紹介、5つのPTAクラブ活動の紹介、書き方教室など11種もある親子参加型教室の紹介、そして「父親目線で語るPTA」座談会と内容も情報量も満載。ここまで徹底して保護者の活動を紹介されれば、どれか可能な一つ位は参加せずには申し訳ない、そんな気持ちにさせられるのではないのでしょうか。

## ■「しおかぜ」=地域性との化学反応

かつては街道に隣接した漁師町だったという地域の特色を残し、新年度第1号には年間の主な地域イベントがしっかり掲載。盆踊り、夏祭り、宿場祭り、餅つきなど催事のない月はほとんどないほど。毎号の巻頭にPTA会長と校長・副校長の鼎談を収録し、地域で見守られる子供の話題を取り上げています。さらに写真撮影やデザインでは「父親の会」メンバーからの協力もあるようで、まさに下町の助け合い精神が発揮された、地域との化学反応で作られた紙面の盛り上がりをお知らせします。

特に圧巻なのは号外の「運動会ポスター号」。A全サイズ×両面カラー印刷の力作。片面は全校児童の、競技でガンバル顔のモザイク写真が埋め尽くしています。広報部員+お父さん達が総動員でつくり上げた記念品です。

## ■「はないち」= 伝統の企画力と機動力が健在

通常号の発行の他に、「教職員紹介号」と「人気の遊び場ランキング」(7月発行別冊)を発行。情報収集にかかる手間と企画力という面では、通常号以上のパワーを必要とする号外が充実しているのは同校広報委員会の伝統。特集のPTA委員会紹介で、広報委員会の自慢が「経験者が豊富」と書いているところからも納得です。よき伝統をどのように引き継いでいくかもポイントです。

もちろん通常の発行にも旺盛な調査力は発揮されています。家庭での勉強時間や習いごと、ケータイ・スマホ事情などのアンケート「クローズアップ花っ子」を毎号で取り上げ、保護者共通の課題と悩みを共有しています。さらにPTA役員委員の実態アンケートもこなし、苦勞の成果が反映された紙面です。